

第一生命経済研究所のホームページご紹介

アドレス：<http://group.dai-ichi-life.co.jp/cgi-bin/dlri/top.cgi>（「第一生命経済研究所」で検索可能）
ホームページに登場したレポートテーマの一例をご紹介します。このほか数多くの詳細な経済分析レポートが掲載されていますので、経済研レポートと合わせてご活用ください。

～激動する世界の金融市場動向を毎週お知らせします。

2010/5/17 「Market Watching Weekly Market Report」（毎週月曜日配信）

掲載カテゴリ：畠峰義清の「マーケットウォッチング」

～少子化はどのように日本経済に影響を与えるのか。いくつかの切り口から分析します。

2010/4/26 「衰退する若者消費の分析～『車を買わず、ビールを飲まず、海外旅行に行かない』
説は本当か？～」

2010/4/23 「超少子化時代若者30人に1人が外国人～20歳代人口の減少が進んだ後の世界観～」

掲載カテゴリ：熊野英生の「金融市場の謎を解く」

～若年者の雇用環境悪化がやがて引き起こすと考えられる懸念について分析しています。

2010/4/27 「大学生の就職戦線好転は2012年～団塊世代の大量退職が後押しも、国力の弱体化
につながる深刻な問題も～」

掲載カテゴリ：永濱利廣の「エコノミック・フォーカス」

～再生を模索する米国経済、問題表面化の欧州経済、注目の新興国経済について解説しています。

2010/4/14 「米国 景気後退前の雇用水準の回復は2016年までかかる恐れ～生産性の向上と
実質GDP成長率の鈍化が影響～」

2010/4/27 「ジョブレス・リカバリーを回避した英国～雇用改善が直ちに消費回復につな
がるかは予断を許さない～」

2010/4/21 「一次産品依存度からみた新興国の類型～市況の影響は様々だが、新興国にお
ける政府の果たすべき役割は高まる～」

掲載カテゴリ：桂畑誠治・田中理の「欧米経済を探る」、「アジア・新興諸国経済」

編集後記

「百年に一度のショック」と言われてから足掛け二年、ここまでは世界経済の回復は予想外に早く進んだといえよう。金融危機の強烈なイメージは「百年」によって各国に瞬く間に広がり、企業のすばやいリスク回避や政府の大胆な政策発動を引き出したことは確かだ。

金融機関の過剰リスクテイクの処理と企業の雇用コストのカットがともに景気底打ちの時期を早めたとすれば、景気回復の恩恵も双方に行き渡らないと不公平だ。ところがショックの発信源といわれる米国では、大手銀行の好決算は相次いでいるが、失業率は依然高水準だ。このあたりに金融規制強化が一般の注目を浴びる背景があろう。

かたや日本は「二十年来のデフレ」から未だに抜け出せていない。周回遅れの日本経済では、金融政策や金融規制の議論の足並みを揃えようにも、欧米と同列には語れない部分が大きく残る。

ただこの「デフレ」という言葉の呪縛にとらわれ過ぎるのもどうか。雇用環境や物価に表れた改善の兆しにはもう少し目を凝らしてみたい。デフレを口実にせず景気回復のタイミングをとらえて、成熟した経済にとって最低限必要な成長力を取り戻すためにも、手を付けなければならない課題は多い。(H. U)